

ト拉斯コ中山株式会社 導入事例

仕入先約2,800社と 顧客約5,500社を結ぶ サプライチェーンの デジタル変革で”問屋を極める”

ト拉斯コ中山は「プロツール」と呼ばれる機械工具、物流機器、環境安全用品等の卸売を手掛ける卸問屋である。約2,800社のメーカー・仕入先と、機械工具商やネット通販企業、ホームセンターなどの小売およそ5,500社を結び、日本のモノづくりの現場にプロツールを迅速かつ安定的に供給している。『問屋を極める、究める』を経営指針に掲げ、業界最大の在庫と業界最高の利便性を追求してきた60余年は、業界の常識を変え続けてきた歴史だ。デジタル戦略本部 情報システム部 システム管理課 課長の鎌倉貴行氏は次のように話す。

「取り扱い品目は約240万アイテム、うちロングテール商品を含む約46万アイテムを常時在庫し、ワンストップでタイムリーにお届けできることが、『ト拉斯コならプロツールが何でも揃う』『ト拉斯コなら最小ロットで即日届く』というお客様の評価につながっています。私たちは、プロツールに対する少量多品種・高頻度のニーズにお応えするために、物流システムと情報システムを徹底的に磨き上げてきました」

**TRUSCO**[®]**業界**

Eコマース・小売

導入年

2020年

ユースケース

クラウド

利用機能

- › New Relic APM
- › New Relic Browser
- › New Relic Logs
- › New Relic Infrastructure

利用用途

SAP S/4HANAによる基幹業務システムと連携する仕入先向け業務連携ポータル「POLARIO」、顧客向けECサイト「オレンジブック.Com」にNew Relicを適用し、サプライチェーン全体のサービス品質を改善。

NEW RELICの選定理由と成果

- › SAP Business Technology Platformのクラウド環境と、オンプレミス環境のアプリケーションパフォーマンス監視を実現
- › 既存のシステム監視ツールでは把握できなかった問題点・原因の特定に寄与
- › システム稼働状況からユーザー体験までサービス品質の改善に必要な情報を可視化
- › 問題が顕在化する前に対処するプロアクティブなシステム運用が可能に



デジタル戦略本部 情報システム部
システム管理課 課長
鎌倉 貴行 氏

トラスコ中山の強みは、モノづくりの現場に、必要な時に、必要なモノを、必要なだけ供給できる「圧倒的な在庫数と独自の物流システム」にある。高度に自動化された国内26の物流拠点では1日28万件以上の入出荷を可能にしており、洗練されたプラネット&サテライト物流システムにより即納される。

「2020年1月にSAP S/4HANAベースの新基幹システム『PARADISE 3』を稼働させ、リアルタイムでのデータ活用を強化するとともに、仕入先様とお客様を結ぶサプライチェーン全体の更なる高速化を実現しました。ここでは、SAP S/4HANAと連携するSAP Business Technology Platform上の新サービス『POLARIO』が、サプライチェーンのデジタル化の推進に大きな役割を果たしています」(鎌倉氏)

サプライチェーンの上流を支える 仕入先向け業務連携ポータル

新基幹システムと同時に構築された「POLARIO」は、サプライチェーンの上流でメーカー・仕入先との接点を担うポータルであり、業務プロセスのデジタル化を推進するための戦略的な役割を担う。システム管理課 係長の上田洋栄氏は次のように説明する。

「仕入先様およそ2,800社のうち、EDIを利用できない仕入先様との受発注をFAXと人手に頼ってきましたが、



デジタル戦略本部 情報システム部
システム管理課 係長
上田 洋栄 氏

POLARIOの導入により業務のデジタル化を大きく前進させることができました。現在では、およそ1,670社がPOLARIOを利用して見積や納期回答を行っており、受発注業務の効率性とスピードを大幅に向上させています」

POLARIOはSAPが提供するクラウドサービスSAP Business Technology Platform上に構築され、オンプレミスのSAP S/4HANAで稼働する新基幹システム「PARADISE 3」とリアルタイムに連携する。ERP本体をカスタマイズせず、標準性を保ちながら新サービスをクラウド上に作り込んだことがポイントだ。

この「POLARIO」の構築と並行して、検索から見積・発注まで行える、工場・作業現場のプロツール総合サイト「オレンジブック.Com」の機能強化も行われた。注文・見積・返品などの機能を24時間利用可能にし、多様化する顧客ニーズに応える大幅なアップデートである。

「新基幹システム『PARADISE 3』を中心に、『POLARIO』がサプライチェーンの上流を、『オレンジブック.Com』がその下流を担うことで、仕入先様とお客様を結ぶトラスコ中山のサプライチェーン全体に、デジタル化による高速化と効率化がもたらされました。残る課題は、オンプレミスとクラウドが連携するビジネスクリティカルな環境をいかに安定的に運用し、より良いシステムサービスを提供し続けるかでした」(上田氏)

POLARIO とオレンジブック.Com に New Relic を適用

POLARIO は SAP Business Technology Platform で稼働し、オレンジブック.Com はオンプレミス環境からサービスを提供しているが、それぞれ運用監視に課題を残していたという。

「クラウド上のサービス監視は十分とは言えませんでした。POLARIO 上でレスポンス悪化などの問題が発生しても、何が起こっているのか詳細を把握できず、どう対処すべきか即座に判断できないこともあります。また、オレンジブック.Com ではサービス影響のある問題を未然に防ぐことができなかつた経験もあります。こうした状況を開拓するために採用したのが New Relic です」（鎌倉氏）

New Relic は業界を代表するオブザーバビリティ（可観測性）プラットフォームであり、デジタルサービスにおけるあらゆる重要指標の「観測」を可能にする。アプリケーション、インフラ、ユーザー体験の観測を通して、障害やサービスレベルの低下、潜在的な問題・ボトルネックを可視化する。

「New Relic には、アプリケーションパフォーマンス管理（APM）によるサービス品質低下の原因分析に大きな期待がありました。従来の方法では、システムの稼働状況やリソースの使用率を監視して、何か問題があったときに通報される仕組みでしたが、問題発生を知ってから対応を始めていたのではサービスへの影響は避けられません。New Relic なら、素早く原因を分析・特定してサービス影響を最小化したり、問題が顕在化する前に対処できると考えたのです」（鎌倉氏）

問題発生の予防と原因特定の スピードアップに威力を発揮

SAP Business Technology Platform 上に構築された「POLARIO」には New Relic APM と Browser が導入され、コンテナアプリケーションの挙動を詳細まで把握するとともに、ユーザーのサービス体験の計測を可能にした。

「レスポンスタイムやセッション数など、サイトの状況がリ

アルタイムで見えるようになったことで、サービス影響が発生する前に手を打てるようになりました。また、クラウドとオンプレミス間の連携処理に遅延が発生した際に、その原因を速やかに特定できるようになったことも大きいですね」（上田氏）

一方、オンプレミスで稼働する「オレンジブック.Com」には、New Relic APM、Browser、Logs、Infrastructure が適用された。複数のソフトウェアモジュールが連携する複雑なシステムで、未知の問題発生に際して原因の切り分けから復旧までの時間を最短にするための体制が整えられたことがポイントだ。

「アプリケーションプロセスのどこの処理に時間を要していて、システム全体のパフォーマンスを低下させているのかが一目瞭然です。従来のリソース監視で見えなかつたものが New Relic で見えるようになり、以前なら一晩を要していた原因の特定も 15 分ほどで可能になりました」と上田氏は評価する。

「システム負荷が高い=ユーザー体験が良くない、ということを定量的に把握できるメリットは New Relic ならではです。ユーザー体験が悪化していることを把握したら、即座にシステム上のボトルネックを特定して解決の手を打つ。さらには、プロアクティブに手を打ってユーザー影響を予防する、というように私たちの行動も変わっていくはずです」と鎌倉氏は期待を示す。

ビジネス継続に欠かせない システムの安定稼働とサービス品質向上

トラスコ中山は、独自の経営戦略が認められ2018年にポーター賞を受賞。2020年には、デジタルトランスフォーメーションにおける先進的な取り組みが評価されて「DX グランプリ2020」を受賞している。

「2020年8月に『デジタル戦略本部』を新設し、全社レベルで DX を推進していく方針を明確化しました。PARADISE 3 は、トラスコ中山のサプライチェーンを支える基幹システムであるとともに、DX 推進のための中核システムでもあります。SoR (System of Record) 領域をオンプレミスでがっちりと運用しつつ、外部との接続やサー

ビス連携を担うSoE (System of Engagement) 領域はクラウドを積極的に使っていくことになるでしょう」(鎌倉氏)

仕入先の業務改革にも寄与するPOLARIOをはじめ、オレンジブック.Comとも連携する見積自動化システムなどは、まさにSoE領域に位置づけられる。鎌倉氏は次のように話した。

「私たちのサプライチェーンシステムは、仕入先様とお客様を結び、巨大なエコシステムを形成するビジネスの大動脈です。ビジネス継続に欠かせないシステム全体の安定稼働とシステムサービスの品質向上のために、New Relicを積極的に活用していきたいと思っています。New Relicが、『問屋を極める、究める』という私たちのミッションに欠かせない存在となってくれることを期待します」



New Relic をはじめよう

New Relicはクラウド型のオブザーバビリティプラットフォームです。オンプレミスかクラウドネイティブな環境かを問わず、フロントエンドからバックエンドまで全てにおけるシステムの性能劣化をコードレベルで瞬時に特定し、より完璧なデジタルサービスを実現します。New Relicは所定の利用規模を超えない範囲に限って無料で利用することができます。利用開始にクレジットカード情報の登録は必要ありません。



1名のフルアクセスユーザー

New Relicの全機能を利用可能

100GB/月のデータインジェスト

データ保存と可視化やアラートの全機能が利用可能

技術スタック全体を可視化、分析

様々な機能を通じて完璧なソフトウェア構築をサポート

New Relic株式会社

所 在 地：東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウンタワー18F
設 立：2008年
代 表：小西真一朗
事 業 内 容：オブザーバビリティ プラットフォームの提供

本 社：New Relic, Inc (所在地：サンフランシスコ)
創 業 者：ルー・サーニー
従 業 員 数：約2,700人
売 上：\$925.6M (2023年3月)

New Relicはたった1ライセンスで、あなたのもつシステムの規模に関係なく、モバイルやブラウザ、アプリケーションからインフラまであらゆる領域のシステム状態を一元的に把握、エンジニアチームが常時システム性能を改善することを可能にします。

このリアルタイム・システム分析の力は“オブザーバビリティ”と呼ばれ、デジタルビジネスを展開する企業の必須能力として採用されています。

New Relicはこの“オブザーバビリティ”的力を1つのプラットフォームに凝縮し、あらゆる企業が「より完璧なデジタルビジネス」を実現するお手伝いをしています。

お問い合わせは
こちらから

